

平

成20年をピークに人口減少局面に入った日本。平成18年から上昇傾向にあった合計特殊出生率(※1人の女性が一生に産む子どもの平均数)は平成26年に低下に転じ、その年の出生数も100万人足らずと、過去最低を記録しました。また、東京一極集中の傾向は加速化し、地方からの人口流出は歯止めがかからない状況です。

そのような中で、平成26年12月に、国は日本全体の人口の将来展望を示す「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。この総合戦略には、人口減少に歯止めをかけ、2060年に1億人程度の人口を確保することや、将来にわたって活力ある日本社会を維持することなどが盛り込まれています。地方創生は「ひと」が中心であり、地方で「ひと」をつくり、その「ひと」が「しごと」をつくり、「まち」をつくるという流れを確立していくことが求められています。

〔参考：まち・ひと・しごと創生総合戦略(2015改訂版)〕

特集

まち・ひと・しごと創生 総合戦略 阿蘇市の将来展望を定めました

基本目標①

阿蘇市の産業を支え新たな雇用を創出する

○雇用創出数

2020年までの5年間の累計で、阿蘇市の生産年齢人口比率(※15歳～64歳までの比率)を3%向上させる。

⇒現状 55.9%を 58.9%に向上させる

基本目標②

阿蘇市への新しいひとの流れを作る

○阿蘇市への移動による人口収支をプラスに近づける。

転入数:50人増加 転出数:100人減少

○年間観光入込客数を増加させ、宿泊・サービス業や商・農業の活性化を図る。

観光入込客数を(国内5%、海外10%)増加

⇒現状(国内約450万人、海外8万4千人)

基本目標③

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

○阿蘇市に居住する0歳から12歳の子どもを有する世帯数を10%増加させる。

⇒現状 1,531世帯を 1,681世帯に増やす

基本目標④

時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

○2020年の人口を、27,000人台に維持する。

(2014年度末住民基本台帳 27,723人)

人口減少克服に向けた 4つの基本目標

本市が定めた総合戦略では、左記の4つの基本目標を設定し、それを達成するための各種施策により、人口減少克服に向けた取り組みを推進していきます。いずれも2020年までの5年先を見据えた施策となります。

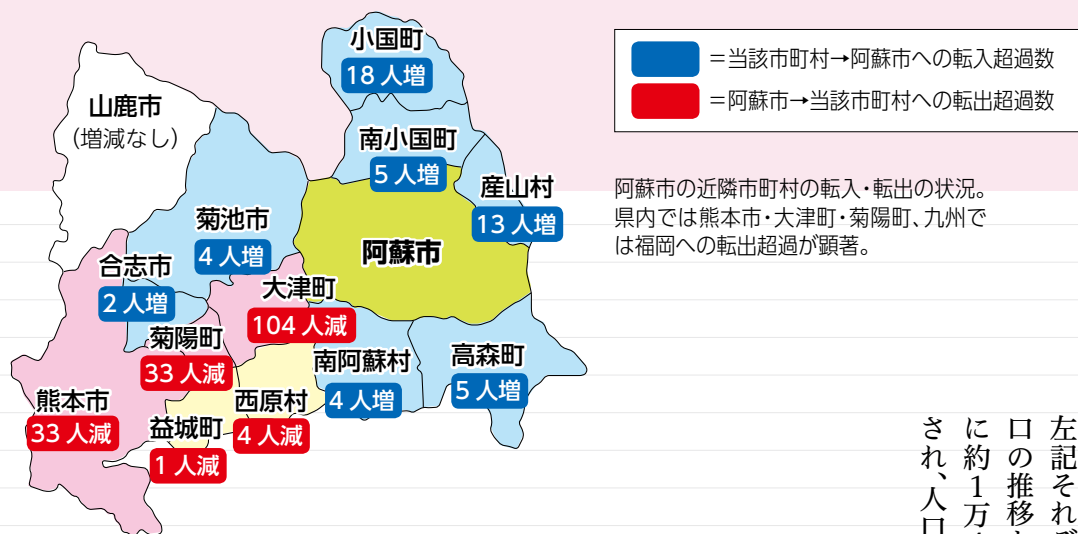
国の総合戦略を受け、地方では平成27年末までに「地方版総合戦略」を策定し、それが具体的な施策を設定し、平成28年からのいよいよ事業が進められます。本市でも昨年末に「阿蘇市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

阿蘇市が掲げる総合戦略

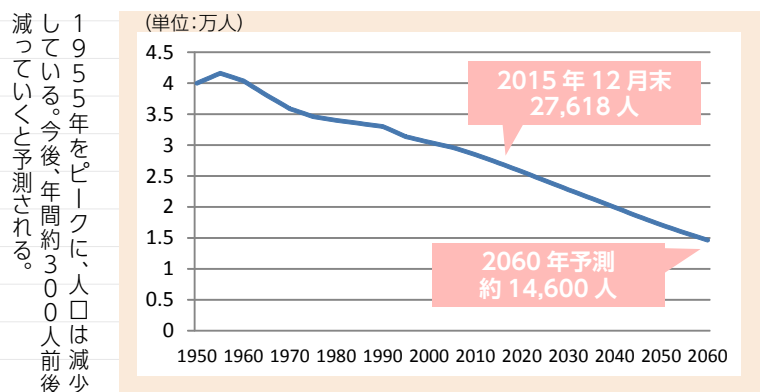
下記グラフで分かるように1955年（昭和30年※旧町村合計）をピークに人口減少が進んでいる状況です。人口減少の要因に挙げられる若年層を中心とした転出超過による「社会減」に歯止めをかけ、「しごと」と「ひと」の好循環による持続可能な地域社会の創造を目指すため、具体的な数値目標を掲げ、これから各施策に取り組みます。

今回は、人口減に直面する阿蘇市の現状を知っていただくとともに、本市が策定した『阿蘇市版総合戦略』の一部をご紹介します。阿蘇市の主役は市民です。輝ける市の未来を一緒に考えましょう。

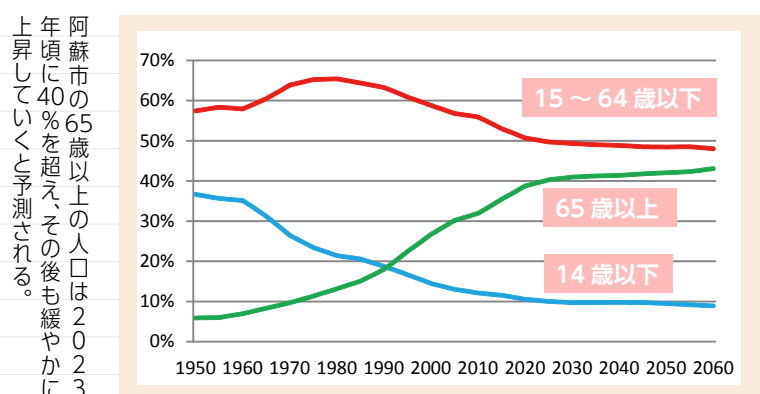
阿蘇市の転入・転出超過数の状況図(2013年)



阿蘇市の人口推移と将来推計



阿蘇市の年齢3区分人口の推移



左記それぞれの折れ線グラフは1950年から現在までの阿蘇市の人口の推移と、2060年までの推計を表したもので、人口は2060年に約1万4600人、65歳以上の高齢者の割合は43パーセントと推計され、人口減少とともに高齢化率も上昇すると予測されます。

人口減少に直面する現状を知る

施策 移住定住の促進による選ばれる地域戦略

移住定住総合窓口の整備や情報発信の強化、子育て世代向けの定住支援などにより、本市に移住・定住するためのきっかけづくりに取り組みます。

(目標) 子育て世代の移住・定住数:50 世帯増加させる
地域ブランド調査:総合ランキング現状 88 位→50 位以内を目指す
(全国)

施策 農業振興による活力ある地域戦略

集落営農機能の強化や農林業の経営安定化支援などの取り組みにより、生産性の向上を図り農業経営の魅力を引き出し、多様な担い手の確保と育成に取り組みます。

(目標) 新規就農者数:30 経営体増加させる
農業法人数:10 経営体増加させる

施策 阿蘇ブランドを活かした魅力ある地域戦略

草原資源などを活用した環境学習、教育旅行誘致の促進などにより、「阿蘇グローバルジオパーク」の認知度向上と商品化を促進するため、資源を活用した滞在観光と外国人観光客の受け入れ環境強化に取り組みます。

(目標) 国内宿泊客数:現状 73.4 万人を 80 万人に伸ばす
外国人宿泊客数:現状 8.4 万人を 12 万人に伸ばす

4 階に記載の「基本目標①・②」の達成を目指す分野です。農業、観光、商工業の担い手育成・支援や地域資源を活用した新たな産業創出による「しごと」と、移住定住施策の展開で「ひと」との好循環による地域の活力創造を目指します。

「経済」の活性化による
地域の活力創造

施策 結婚・子育て世代の希望をかなえる地域戦略

子育て支援の環境整備や不妊・不育症への支援などにより、安心して子どもを産み・育てることができるよう、地域や社会で子育てを支える環境づくりを進め、子育て支援サービスの充実を図ります。

(目標) 合計特殊出生率(※):現状「1.7」を維持する
待機児童数:通年での「待機児童なし」を目指す
(※) 1 人の女性が一生に産む子どもの平均数

施策 みんなに優しく安心して暮らせる地域戦略

路線バス再編などによる地域公共交通の再構築や交通弱者に対する環境整備により、慣れ親しんだ地域で安心して生活ができるよう、交通手段の確保と買物等不便地域の改善に向けて取り組みます。

(目標) 乗合タクシー利用者数:現状から 10%増加させる
住みよさランキング:全国ランキング現状 10 位→5 位以内を目指す

施策 健康づくりと生きがいづくりの地域戦略

高齢者の健康づくりと介護予防、生きがい対策の充実などを図り、高齢者が住み慣れた地域で安心した生活が送れるよう、地域住民との官民一体による地域包括ケアの構築を進めます。

(目標) 老人クラブ加入率:対象高齢者の 80%以上の加入を目指す
65 歳以上の要介護認定者の割合:現状 20%→25%程度に抑える。

4 階に記載の「基本目標③・④」の達成を目指す分野です。子育てや福祉などの生活環境の充実と、防災など安心・安全なまちづくりの推進により、市民の「居住」に対する満足度を高めることで、人口流出抑制と出生率向上を目指します。

「福祉・生活」の充実による
選ばれるまちの創造

施策 ふるさとづくりの推進による地域戦略

歴史・文化・自然・阿蘇の達人を活かした“阿蘇学”の創作、阿蘇サポーター・ファンの創出・拡充を図るため、阿蘇の強みや魅力を市民が共有できる取り組みを推進します。

(目標) ふるさと納税納付者数:現状 52 件を 50%増加させる
ASO 環境共生基金納付者数:現状 258 件を 10%増加させる

施策 学校教育の拡充による地域戦略

ICT 活用型独自カリキュラムの推進やスーパーティーチャーによる特別授業により、阿蘇ならではの教育環境充実を図り、児童・生徒が誇れる学校づくりを進めます。

(目標) 小中学校の ICT 環境整備率:現状 60%→80%へ向上
地元高校への進学率:現状 43%→50%へ向上



(写真)電子黒板で授業をする子どもたち

「教育」による人材育成と 郷土愛の創造

4ページに記載の「基本目標②・④」の達成を目指す分野です。人材育成を地域創生のはじまりと位置付け、郷土に誇りを持って未来に進む若者を応援し、多様な可能性にチャレンジする人材を支援します。

まとめ

より活力ある阿蘇市を目指すために・・・。

本市の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、将来の人口減少や少子高齢化が急速に進む社会情勢においても高い持続性を確保していくことを目的として、本ページで記載した「経済の活性化による地域の活力創造」・「福祉・生活の充実による選ばれるまちの創造」・「教育による人材育成と郷土愛の創造」という3つ方向性に沿って策定、それぞれ2020年までの目標を掲げています。



国に準拠した推計によると、阿蘇市の2060年の人口は、14,600人まで減少する見込みとなっており、その要因としては、暮らしやすい環境や働く場所を求めて若い世代の人たちが阿蘇市外へ転出することなどが挙げられます。

このまま何もしなければ、働く世代の人たちが更に減少し、行政運営を支えている税収が減ることになり、行政サービスの低下を招く恐れがあります。

人口減少を抑制し、活力ある阿蘇市を目指すために、企業や事業所及び自営業主の方々と連携した働く場の確保に向けた取り組み、地域や社会で子育てをサポートできる環境整備への取り組み、郷土愛を育む教育環境整備への取り組みなど、市民皆さんとともにさまざまな施策に取り組んでいきます。

(問い合わせ)市役所財政課 企画係 ☎ 22-3204